

上越市議会議員 丸山 章 だより

全力で皆様の声を市政に!!

隕石の里から

いん

せき

さと



第13号 令和4年11月 発行責任者 丸山 章 / 上越市清里区馬屋777

令和4年3月・9月
議会質疑

市長の肝いり政策に焦点

地域独自予算

新味消える 大きく後退

区(地域)を
発展へと
導けるか?

高士地区公民館

市長は、本年1月5日に地域協議会会長会議が開催された際に、地域独自予算については地域の発想を引き出して、その取組の実現を図ることで地元の人たちの地域に対する愛情、誇り、経済の好循環を生み出していきたいとの考え方を示した。しかし、内容が不明確でプロセス等はどうなるのか、市長の思いだけが先走ってしまったことに戸惑いの発言が相次いだうえ、適切な判断を示せなかったことで様々な面で混乱が生じてしまった。その後も首尾一貫した思考に欠け、見切り発車的に令和5年度からスタートさせる行政運営に懸念が生じたことから、市長の考えを質した。

地域独自予算

いままでの市長答弁	直近の市長答弁
地域を愛し、地域の宝物を探し、若者の雇用(定住)を図る。	色々な取組の中から雇用が生まれてくるかもしれないが、雇用に繋がるとは一概に言えない。雇用を生み出すという一方的な事業予算はあり得ない。
※市長の住んでいる桑取地区において、若者の雇用(定住)に繋がる考えを尋ねた。	※エネルギーを確保するうえでSDGs(持続可能な開発目標)の仕組みが必要で、こうしたことを都会の人に知ってもらいたい? ※市長は具体策を示すことはできず。
・地域の特徴、メリットなどを調査し、行政、地域協議会で地域ビジョンを作っていくことが重要である。 ・6月30日の記者会見で、改めて地域協議会委員に向け、地域の声を聞く、お宝を探す、地域ビジョンを決めるこの三点を行ってほしいと。	各地域において、地域活性化の方向性を定めることにした。 〈注釈:方向性とは本来曖昧な内容になってしまうため、方向性と同時に地域ビジョンを作り、ミッションにつなげて行くことが重要である。〉
地域の予算枠については、各地域間に壁とか差異を作らないよう慎重に検討したい。	地域の予算枠については、地域によって差が生じても仕方がない。地域間競争というか、地域活性化に向けて意欲を持ってもらうことが大切である。
市の方針(総合計画、公の施設等の行政改革)に反する予算提案は認めないこととする。	公の施設については、地域と話し合い合意(理解と納得)できれば、それに向けて必要なものはきちんと考えていく。 ※回答が前向きになった点は評価
地域の課題について、市民、各種団体の意見交換等を行ったうえで、地域協議会と市職員が主体的になって予算編成を行っていく。	地域協議会、行政、地域の団体等の提案事業について、地域協議会で審議したうえで、行政と一緒に決定し、予算編成は行政で行う。

※村山市政の「地域活動支援事業」とほぼ変わらず。

唯一変わった点は、各区の地域協議会で事業ごとの予算を決めていたものを、行政で予算を決めるとしたところ。

あさらのつぎやき

中川市長は、市議会議員2期8年を経験され、前市長の言動等を事あるごとに見つめてこられたと思いますが、一貫性のない答弁が続いているため建設的な議論ができない状態になっています。私は2年間ほど、中川市長の市政運営を見つめたと思っていますが、責任ある言動に大きな不安を感じています。もしも、今の状態が続くようであれば、市政運営に影響を及ぼすことは避けられず、ただただ赤信号が灯らないことを願うばかりです。

■あきらのR4年3月議会から9月議会までの質疑■

3月議会

『揺れ動く言動』

中川市長

頭抱える市職員！

すでに「裸の王様」状態？

6月17日のマスコミ報道であつたように、市長の具体的な考え方が分からないうえ、周知等が遅延。職員も困惑しきりの様子。ちまたでは、市職員は市長の言葉に振り回されず、粛々と市政業務に取り組んでいきたいと……。

『基本方針、ビジョン』半年でできるか？

令和5年度の予算編成に向け、『基本方針、ビジョン』を令和4年9月までに決めるとした。

地域協議会と市職員の協働の下、市民からの意見聴取、地域の魅力の調査、地域協議会がどのような方針で動くのか等の「基本方針、ビジョン」を決めていく。

しかし、質疑で次のような「揺れ動く言動」・「整理のない答弁」飛び出す

- ①スタートの年であるので、時間をかけながらも令和5年度に予算を立てられるようにしたい。〈注釈：予算提出時期の10月までに意見聴取、審査・取り纏め・予算作成は至難の業になるうえ、ビジョンの作成は不可能。〉
- ②農業、漁業、それぞれの地区の特徴、メリット及び観光のためにも魅力を洗い出してビジョンに生かすことが大事である。
- ③地域協議会にリーダーを担える人がいるのか。また、ファシリテーション能力、リーダーシップ等の能力を持っていない市職員が多いので、人事改革プロジェクトで人材育成を進めていく。慎重にコソコソと取り組んでいきたい。

〈市議会だより「かけはし」の掲載文は略〉

問／要綱等を示さないで、どのように地域協議会、職員が一体になって行えるのか、9月までに決めていきたいとのことだが、令和5年度予算編成に間に合うのか。

答／本年4月に令和5年度地域独自予算の内容、スケジュールを示したい。



清里区地域協議会

問／市長の地域ビジョンの認識を聞きたい。

答／地域の特徴、メリット等を地域ビジョンに生か

していくことが大切である。問／令和4年度から2ヶ年かけて地域ビジョンをつくり、令和6年度から地域独自予算に取組んだ方が良いのではないか。

答／リーダーシップ等の能力を持っていない職員が多いので人材育成を進めていく？

問／総合事務所等と地域協議会が協力して予算編成を行うと言ったのでは。

答／地域協議会に予算案を編成する能力はない。地域協議会は地域の声をまとめ、調査し、地域ビジョンを作っていく。予算編成は職員が行う。

問／地方自治法に示されている「公正」という文言、どのような認識か。

答／基本的に、同じ基準、同じルールで予算配分、執行されること。

問／令和5年度予算に間に合わない区がある認識で良いか。

答／提案がないことも十分想定している。

問／「公正」の観点から、

間に合わなかった区に対して、一定額を基金に積み立て、次年度以降に使えるようにすることが必要では。

答／しばらく議論を聞いたうえで、令和5年度にどうするか判断したい。

問／公約で地元のことが分かる職員を配置すると。

職員を10年、20年と同一事務所に配置することか。

答／20代は経験も必要。職員の希望はその後の問題である。地域に入っていくには必要な能力もあり、不足分は研修で身につけさせたい？

6月議会

あきらの進言
受け入れへ

「地域独自予算」…令和4年度で制度設計、令和5年度に事業検討と予算編成を行い、令和6年度から事業実施を行うとの方針が示された。

9月議会

答弁がカメレオンの的に変化

形骸化する 地域独自予算

地域の宝を探し、雇用(定住)、
経済の好循環を
生み出して行くと。

市長の
「空中楼阁」「夢想的」思考
ついに崩壊?

市長の考え方が、わずかな月間で大きく変化し、肝心の質問にはほとんど答えられないケースが目立つほか、他の議員との質疑でも以前の答弁をいとも簡単に覆ってしまうため、質疑が振り出しに戻ってしまう。市長としての言葉の重み、責任感等について、以前指摘したものの一向に改善されない。市政発展に向け、早く建設的議論が継続できるように努めてほしいものである。

〈市議会だより「かけはし」の掲載文は略〉

問／確認したい。若者の雇

用(定住)に結びつく職業を生み出す新たな施策として地域独自予算を実行することで良いか。

答／山間地のものが売れるように、その仕組みを考えて行く。地域独自予算と併せて取り組んでいきたい？

問／これまで、地域の宝を見つけて若者を定着させるための職業を生み出していくと言ってきた。答弁に責任を持ってもらわないと議論がかみ合わない。答／色々な取組の中から、

もしかしたら雇用は生まれるかもしれないが、雇用に繋がるか一概には言

えない。地域独自の多様な活動が生まれることを期待している。

問／「若者を定着させ人口を増やして行く」既に目的が定まっている。「地域の宝を探し若者の雇用(定住)に結びつく職業を生み出す」と方向性も示している。後は地域ビジョンを作り、ミッションに繋げていけば良いのではないか。

答／雇用を生み出すという一方的な事業予算はあり得ない。例えば、草刈とかお祭り等の人材を生み出さなくてはならない。生活には色々な要素があり、それらを取り上げる。それが子供たち、地域の誇りになる？

問／方向性を決めたらうえてビジョンを示す。そしてミッションに繋げていくことが重要である。今後ビジョンの作成を各区にお願いして行くのか。

答／地域活性化の方向性で統一していく。

問／答弁が二転三転し、適

地域ビジョンの重要性

市長は、再三にわたり「地域を愛し」「地域のお宝を探し」「若者の雇用(定住)」を図っていくために、地域ビジョンをつくることは重要と力説してきた。統一したテーマを示した以上、その課題解決に向け市民(団体)、地域協議会、行政による協議する体制を整え、持続可能なまちづくりに向け、羅針盤となる地域ビジョンの策定は必須であった。

切な判断を示さなかったことが混乱に拍車をかけてしまった。準備不足で

令和5年度予算に間合わない区も発生しそうにも関わらず、見切り発車のな行政運営は本末転倒であり、同じ土俵に立ったうえでスタートすべきである。

答／地域協議会に、地域の課題、地域の宝を見つけて、総合事務所等と協力しながら予算編成してほしいと伝えてきた。〈注釈〉半年程度でこれらを整理し予算編成するのは無謀〉

問／若者の雇用(定住)に導く統一したテーマに向け、地域協議会、行政、市民が一緒になって協議し独自予算を編成してほ

しいと。なぜ、地域協議会等が別々に事業企画を出すようにしたのか。

答／色々な題材、お宝を取り上げていただき、市の職員が予算編成する。基本的に、地域協議会と行政が議題を持って決定して行く？

問／地域の団体は、補助額を段階的に10分の7にするとしているが、行政等と一緒に協議し、地域の団体の事業を行政等で取り上げた場合は、100%補助でよいのか。

答／そのとおりである。問／公の適正配置に伴う「温浴施設」は廃止に向け進めるとしていたが、地域づくりを進めるうえで再利用したいとした場合、承認するのか。

答／地域と話し合い、一定の理解、合意を得たならばそれに向けて必要なものはきちんと考えて行く。

問／地域によって差が生じても仕方がないと言われたが、そうした認識のもとに独自予算を作ったのか。

答／それぞれ、寄り添っている人、事業内容は違うと思う。地域の活性化に向けて意欲を出すことが大切である。きちっと評価する第三者的機関を設ける。

問／公正については、市の最高規範条例でも定まっている。地域的公正、社会的公正について、市長はどのような認識でいるのか。

答／各地域に、できるだけ不公平にならないよう配慮することが大事である。

令和4年6月議会質疑

若い世代の子育て負担の軽減重要

不可欠
一貫性ある行政運営

仮称「ファミリーヘルプ児童園」の設置 ▶ 提言 ◀



現ファミリーヘルプ保育園

保護者が日曜、祝日勤務のために留守家庭になってしまふ場合、現在、就学前のお子さんはファミリーヘルプ保育園に預けることができるが、小学校に入学すると就学前に受けていた手厚い支援が打ち切られてしまい、唯一の預け先は、1時間800円の利用料が必要となるファミリーサポートセンターになる。しかし、保護者の負担が一気に大き

くなることから、預けるのを諦めざるを得ない状態になっている。

若い世代の子育て負担の軽減を図る観点から、しかも子育てで日本一を目指す市長の公約からして、少なくとも小学校卒業までの希望者に対して、ファミリーヘルプ保育園から継続する一貫性のある手厚い行政支援策として、仮称「ファミリーヘルプ児童園」の設置は重要である。

とばっちりが市民へ

良い施策も 時に愚策と化す

〈市議会だより「かけはし」の掲載文は略〉

問／就学前まで支援して、小学校に入ったらファミ

リーサポートセンターを利用してくだされとは、乱暴すぎるのではないかと共働き夫婦が増加していることから一貫性ある行政運営が重要である。

答／実際の人数は想定できるが、今、ファミリーサポートセンターの利用者は3人であり、利用されている方は多くないので、直ちに設置することは考えていない。

問／ファミリーヘルプ保育園に預けた人数はいる。ファミリーサポートセンターは利用料が高額のため、預けるのを諦めている市民がいる。少なくとも小学1年生～3年生位までは見守る人が必要である。

答／長時間サポートセンターを利用すると負担が大きくなる。多方面の調査をしつつ、支援の拡充を考えていきたい。

問／今の状況は、小学校に入ったら放り出されるのと一緒にある。早急に改善する気持ちはあるのか。

答／できるだけ改善していきたい。

**早期見直し
＝重要＝**

上越市こども発達支援センター「分室」

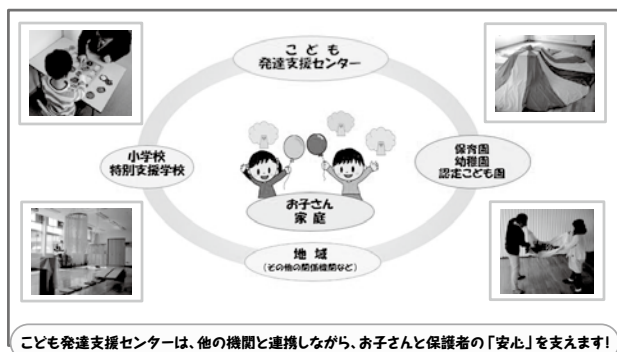
頸北4区に偏る

もはや 自浄作用なし

令和4年6月議会質疑

行政の自浄作用を期待し、私は5年前から指摘し見直しを促すも進展なし！
止むを得ず、公（本会議場）の場で質した。

合併後 10数年間 検討・検討・検討 で今に



現在、頸北地区の柿崎区、大潟区、頸城区、吉川区に分室を置き、発育支援等や保護者からの相談等に応じ、児童福祉の向上を推進している。しかし、分室が頸北地区に偏っているため、市域の広い当市の利用者にとって利便性等が損なわれている。市民の利便性、公正、公平の観点から、集約先総合事務所の柿崎区、浦川原区、板倉区エリアに1か所ずつ分室を置くことが重要である。

問／頸北4地区にあるこども発達支援センター分室を、集約先総合事務所の柿崎区・浦川原区・板倉区エリアに1か所ずつ分室を置くべきでは。

答／頸北の分室の統合に着手した経緯はあるが、整理ができていない状況である。現在4分室以外の要望が出ておらず、新たな分室の設置は考えていないが、分室の配置を検討していく。

問／10数年も検討・検討、問題にならない。5年も前から指摘しているにも関わらず、全く進展なし、どう考えるのか。

経緯

答／できるだけ早く解決するよう努力する。

問／見直しをあと何年で行うのか。

答／期限について申し上げられないが、早く解決するよう努力する

※（仮称）ファミリーヘルプ児童園」の設置、上越市こども発達支援センター「分室」見直しの1年間の進捗について、来年6月定例会議会で再質問することを伝えた。

2017年度：問題点を指摘し見直しの必要性を伝える。

2018年度：すこやかなくらし包括支援センターに出向き、次長、担当者と協議。2020年3月までに見直しするとの回答あり。

2019年度：2020年3月になっても何ら連絡がなかったため、再確認したところ、事情が変わったとの回答あり。

2020年度：9月定例会議会の厚生常任委員会では分室の見直しの確認をした。副市長、所長の答弁は次のとおり。

すこやかなくらし包括支援センター所長

浦川原区、大潟区の皆さんも通っている中で、どのような形態が良いのか多少時間が必要である。市民が便利に利用しやすいよう検討を進めている。

副市長

合併当時、頸北4町村が言語教室ということで持ち込んだものを「こども発達支援センター分室」とした。この分室を頸北4地区に置くこと自体ずっと議論があった。整理を今まで引つ張って来てしまったが、間違はなく見直しをしなければならないので、私は責任を持って見直しをさせていただくことを約束する。

令和4年6月議会質疑

地域のこととは地域で

市民・地域・行政の協働で!!

公の施設(温浴施設等)

廃止等ありきから

重要

活用策へ転換

市長は、温浴施設について、廃止に向かって進めたいとの考え方を示した。理由として、人口を増やすには産業を活性化し、更に、地域の宝を見つけ出し、若者を定着させる職業を生み出さなくてはならないとのこと。しかし、現施設を有効に活用する視点が欠け、単に廃止ありきの形式的な

話合いで対応しようとする極めて狭い視野での判断に、行政運営の先行きに懸念が生じたことから考えを質した。

〈市議会だより「かけはし」の掲載文は略〉

問／過疎地域の持続的発展の支援に関する法律をどう理解しているのか

答／過疎地域をどのように振興して行くかである。

問／公の施設の廃止等に関する説明等が主流で、施設の有効活用策が全く聞こえてこない。

答／担当課でないところで活用に向けて検討、提案しているの、来年度は別の方向性が出てくると思う。

問／地域協議会等が協議したうえで、地域づくり



ろばた館(名立区)

あきらのつぶやき

若者を定着させて担い手にしたいとする一方で、採算性が見込めない場合、地域の総意があつたとしても認めようとしえない市長の考え方は、中山間地域の将来の希望は見いだせません。公の施設について、地域への貢献度、廃止等の基準を設け、一定期間地域に任せてみるのが重要であります。

赤字を減らす努力は論をまちませんが、地域づくり、健康づくり等、トータルでの行政判断が重要になることから、中山間地域の温浴施設等を採算性だけの基準で廃止等を判断することは避けなければなりません。国は、中山間地域はコストがかかることは百も承知で、国土保全等の観点から中山間地域に様々な支援を行い、維持に努めようとしています。

とって施設運営は非常に重要との地域の総意として纏まった場合、市長は許可すると解してよいのか。

答／採算性を基に、きちつと審査して施設を預かりたいとのことであれば委託又は譲渡することになる。

問／施設の運営費の黒字化は無理かもしれないが、地域づくりにとって重要な施設のため、今後も継続使用したい要望が出たら優先してもらえるのか。

答／できる限りのことをしたいと思うが、まず若者が定着し、地域の担い手

を作ることを優先させたい。

問／地域全体の総意を赤字だから認めないのであれば、若年層等が魅力を感じて入ってくることに繋がらない。地域で考えたことに対して、10年程の猶予期間を設けるから頑張つてほしい旨市長が伝えたなら、地域の人たちは勇気づけられるのではないか。

答／日銀がパンク寸前で国の財政が破綻しかけている。自分たちで生き残る方法を考えて行かなければならない。

【編集後記】

令和4年5月に新たな議会人事が行われ、私は農政建設常任委員会委員長のポストに就きました。この委員会の役割は、都市整備、道路、農林水産、ガス水道等の市政業務が適切に行われているかのチェックのほか、政策(施策)から浮かび上がった課題、問題点の指摘や改善策、意見を述べる場でもあります。当委員会での適切な行司裁きを行い、つ、上越市の発展へと導くために努力してまいります。ご意見等がありましたら遠慮なくお申し出ください。早いもので、冬が間近に迫ってきましたが、平年並みの雪であつてほしいと願っています。市民の皆様、どうか健康にご留意され、お元気にお過ごしください。

■ホームページに、今までの議会だよりを掲載してありますので、ご覧いただければ幸いです。

ご相談、ご意見等は お気軽に
市会議員 丸山 章

携帯 090-4724-0574

TEL 025-528-3859

FAX 025-528-3859

Eメール:

amaru102@yahoo.co.jp

ホームページ 丸山章

検索